



**宣教開始から  
現在まで**

徳島に派遣された、宣教師W.P.バンコム師、H・エビントン師、寺田藤太郎らが、

益田喜代吉伝道師と協議した結果、板野郡撫養町における伝道を決め、1890(明治23)年2月11日、益田喜代吉師が撫養に赴任し、林崎の庄野壽三郎氏の貸家に講義所を開いて布教活動を始めたことに始まる。



益田師逝去後、戦中・戦後は横田金熊司祭、小南弘司祭が司牧した。教会建物の老朽化と更なる発展のため、1954(昭和29)年

に現在の南浜権現に移転して新しい教会・牧師館を建築し、同年5月5日、八代斌助主教が聖別し、名称を「鳴門聖パウロ教会」に改称した。



小南司祭が転任後、佐々木崇司祭、桑原一郎司祭、伊神努司祭、小南晃司祭が赴任したが、小南司祭が1988(昭和63)年に転出した後は、管理牧師の時代が続いている。

その後、1990(平成2)年10月28日、宣教百年感謝礼拝が行われ、記念誌を発行。また、礼拝堂の傷みが目立ち、危険と判断された為、2004(平成16)年11月22日、中村豊教区主教のもとで礼拝堂の聖別解除式が行われ、解体撤去された。これ以後は、残された

**第51回神戸教区  
婦人会大会神戸で開催**

牧師館で月2回の礼拝が行われるようになり、2010(平成20)年から、毎月第2週・第4週の土曜日午後3時に変更になり、現在に至っている。



婦人会大会が、5月23日(火)・24日(水)にANAクラウンプラザホテルと、神戸聖ミカエル教会を会場に開催されました。好天に恵まれ1日目はホテルでの開会礼拝から始まりました。講演会は「ひよつとして大人の発達障害?」と題し、今の世に合ったお話で、皆の心と身体を揺り動かした。

竹田契一先生の一言ひと言をもらさず熱心に聞き入り、先生もそれに答えるかのようになり、前へ前へとのお話しにわたしたちのためのお話しくださいました。予定の時間が過ぎ、まだまだお聞きしたいという思いがありました。

夕方は2時間のバイキング、ゆったりとした時間で、久しぶりの友との交わり、おいしいお料理に満足し、自然と笑顔になりました。

2日目はミカエル大聖堂に移動し、10時より聖餐式を行いました。司式は教区婦人会チャプレンの瀬山会治司祭、説教は管理主教の磯崎久主教、補式には大会に出席してくださいました教役者の方々がご奉仕くださいました。説教では、「立

教の心臓はチャペルであり、わたしたち婦人会の心臓は教会である。」とお話くださり、福音書にある、イエス・キリストはぶどうの木



(講演してくださった竹田契一氏)

であり、木につながっていないと、枯れてしまいます。婦人会の在り方についてお話しくださいました。礼拝に引き続き、パイプオルガンのコンサートを、伊藤純子先生の演奏で聴きました。音域の広さと皆さまが一度は耳にした曲目で、素晴らしい時間でした。

わたしたち神戸聖ミカエル教会婦人会も、皆様のお力を借りて無事に終了することができましたが、皆さまが近くに来てくださり背中を押して力付け、見守ってくださったことを感謝します。皆様との出会いを喜び、またの再開を祈りつつ。



(神戸聖ミカエル教会婦人会・覚前康子)